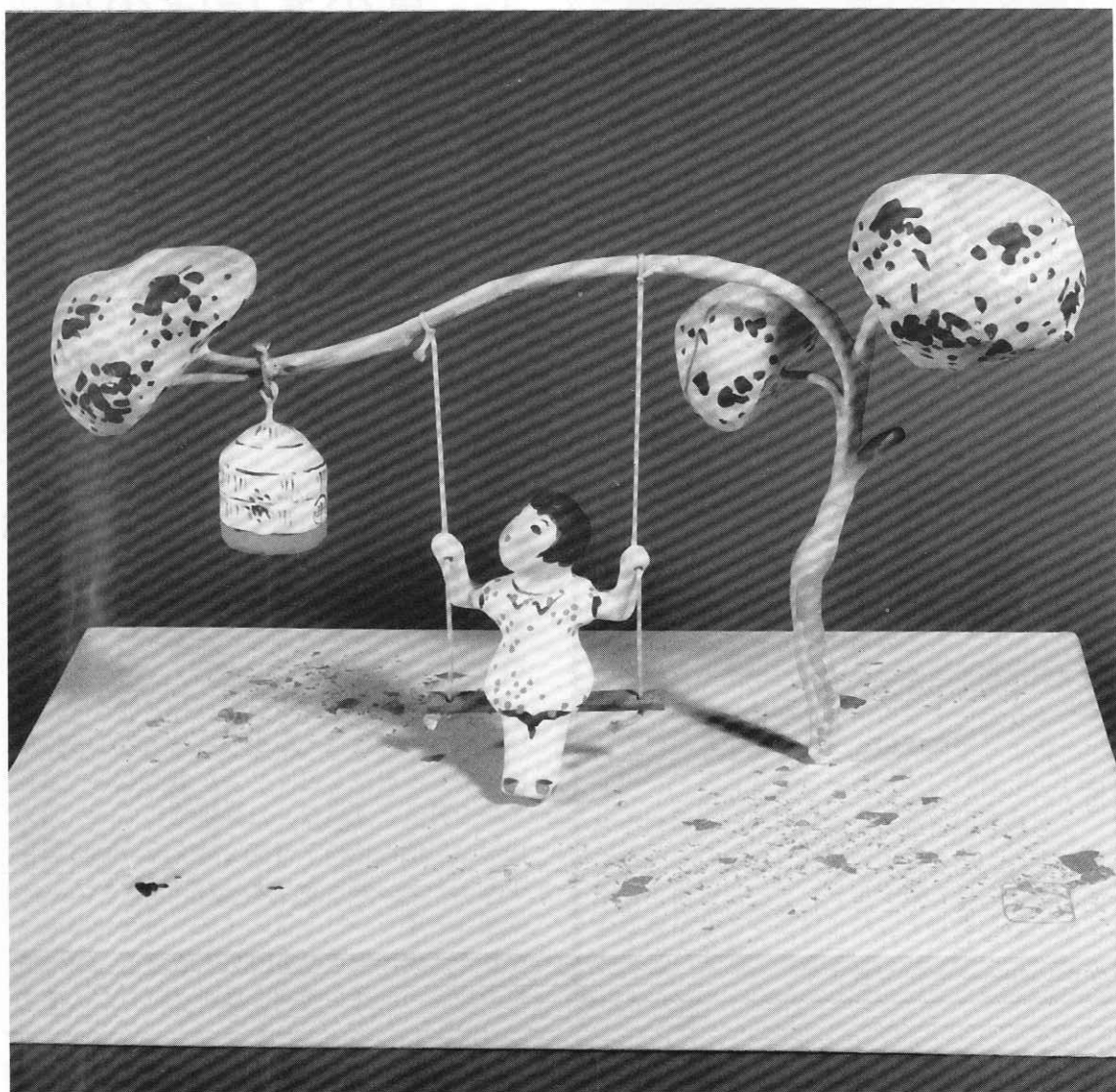


## 郷土館だより

Vol. 14. No. 3

1992. 3. 20



春日 野口 三四郎作

みよろ  
三四郎人形。野口三四郎の得意とする子供の遊びを題材とした作品です。

やわらかく、あたたかな春の陽ざしを浴びてブランコで遊ぶ少女は、平和で、のどかな風景を表現しています。

写真技師として身を立てようとしていた三四郎は、昭和3年、勤務先の三越百貨店からの出張命令で、朝鮮半島へ渡りました。そこで見聞した大陸の異文化は、その後の三四郎

に大きな影響を与えます。

帰国後、人形作家を目指すことになり、数多くの人形を製作しますが、初期作品には朝鮮半島で見た風景や人物等の影響が色濃く残っています。

「春日」の中にも、鳥かごや木などに見られる牧歌的な素朴さが、どこことなく大陸的な雰囲気を持たせています。

## 郷土館企画展

## 「三島のあけぼのⅢ」

平成4年3月22日～5月31日

本企画は今回で第三回となるシリーズ企画展です。同じ教育委員会内の埋蔵文化財係と郷土館が協力し、ここ教年間に発掘し調査を行なった埋蔵文化財を市民の皆様にご紹介するものです。

今回の第三回企画展の主題と主旨は次のようなものです。

## 三島の自然環境と古代遺跡

人間が居住し、生活を営む場所は、人間の暮らしに対する知恵(文化)の発達と共に変遷してきました。

狩猟を中心とした旧石器時代や縄文時代には、動植物の捕獲・採集の容易にできる山中に暮らしの拠点を置く必要があったし、水稻栽培を行うようになった弥生時代には、水の便が良い低湿地の平野部に村を形成して居住することが必要となりました。また、人口の増加にともない村と村の往来や結合が頻繁になると、更に大きな集団が生活でき、かつ情報や物資の流通が便利な場所(町)が人間の



## 箱根山麓の遺跡

～狩猟民の暮らし～

箱根山麓の遺跡は観音洞遺跡、片平山遺跡、小平C遺跡を取り上げ、展示しました。

山麓は旧石器、縄文時代の人々の生活の場で、人々は狩猟、採集を暮らしの中心に置っていました。したがって主な出土遺物は石器や土器で、こうした遺物から大昔の暮らしが想像されます。

## 観音洞遺跡

観音洞遺跡は元山中の集落の北東約1kmにある「縄文時代 中期」の遺跡で、今から約4,500年前の住居跡が5軒発見されました。

縄文時代でもこの頃になると、人々は獲物を求め移動するキャンプ的な生活から、住居をつくり定住する生活へと変化します。そしてこのような住居が5～6軒集まり、しだいに「ムラ」がつくられていきました。

この観音洞遺跡の住居跡からは、石器などの調理具、煮炊き用の土器(写真上)、祭祀的な儀式に使ったと思われる石の祭壇や吊手土器などが発見され、当時の人々の生活をうかがい知ることができます。

## 平野部の遺跡

～生産とサトの暮らし～

平野部に下ってきた人々は、村を作り、水稻栽培を行うなど、生産活動が暮らしの中心となりました。また、大きな人々の群れ(村や国)を統治する首長は、山麓の裾部分などに墓を築いて葬られました。

取り上げた遺跡は上塩辛田遺跡、金沢遺跡(写真右)、夏梅木古墳群、桶田遺跡、御殿川流域遺跡群で、これらから出土した古墳の副葬品、水田遺構、祭祀用具、日用雑器等を展示しました。



の居住地として求められるようになりました。

このように、人間は自らの暮らしの変化にその都度適合する良い場所を求めて、時代ごとに拠点を移動してきたものです。その拠点とは、安全で便利で生産性の高い場所、すなわちそうした条件をすべて満した自然環境のある場所でした。

ところで、三島は古代遺跡の多くあるところとして知られていますが、それは三島という土地が上記してきたような古代の人々の居住条件を備えた自然環境に恵まれていたからです。

三島を地形的な自然環境の視点から大まかに区分すると、次のように三つの地区に分けることができます。

1. 箱根火山の活動によって形成された箱根西麓の傾斜台地
2. 富士火山がもたらした溶岩流の末端部分に当たる、いわゆる三島扇状地
3. 三島扇状地の南に広がる狩野川の流が作り出した平野部

つまり、三島には冒頭に記したような、われわれの祖先達が求めて移動変遷した、人間の居住に最適な自然環境がすべて揃っているのです。

本企画展「三島のあけぼのⅢ」では、三島の三つの自然環境に集中して分布する古代遺跡群から出土した遺物を展示し、それぞれの自然環境の中の祖先達の暮らしぶりを眺めてみました。

### なつめきこふんぐん 夏梅木古墳群

夏梅木古墳群は谷田の夏梅木集落の東側にあり、全部で19の古墳（墓）が数えられます。造られた時代は、皆さんもご存じの「聖徳太子」が活躍していた、今から1400年程前のことです。調査をおこなった古墳はそのうち8つで、古墳の中からは多数の鉄製の刀や、金の耳飾りなどがみつかっています。これらの古墳に眠っていた人は、当時の村長さんたちなのでしょうか。



代官所を囲む大溝

## 市街地の遺跡

＝行政施設とマチのくらし＝

三島市街地には、奈良時代から江戸・明治時代までの遺跡があります。取り上げた遺跡は上才塚遺跡、市ヶ原遺跡、代官所遺跡です。

これらからは、昔の役所跡や民家の遺構などが発掘され、役人が身に付けていたと考えられる装飾品や一般の人々が使用していた食器類等が多数発見されました。

### 三島代官所

(写真上)

現在、三島市役所の建っている場所は、江戸時代には代官所があったところです。

三島代官所は1590年、徳川家康が設置し、韮山に移るまでの約170年間この地にありました。発掘調査によって、礎石のある柱穴列が発見され、代官所の門の跡と考えられています。また、当時代官所で働く人々が使ったと思われる陶磁器や古銭、キセルなどがみつかっています。



古墳の副葬品の出土のようす

## 「続 三島の昔話」のご案内

郷土館では昭和56年に市内に残る昔話を採集し、「三島の昔話」として発行し、多くの人々に愛読されています。

今年、郷土館開館20周年・市制50周年を記念して、前回掲載できなかった話や、新たに収集した話を中心に続編を刊行する運びとなりました。

これは、市内を戦前の三島町、北上村、錦田村、中郷村の4地域に分け、そこの特色ある話を収録したものです(60話)。はからずも、

各地域の豊かな歴史も浮かび上がってきたと思います。また、遊び唄・子守唄など失われつつある伝承の唄も収録しました(24唄)。

この本が「三島の昔話」同様、お父さん・お母さんより読んでいただき、子供達の心に残るふるさとのお話となれば幸いです。

(1冊 500円、郷土館窓口にて販売)

掲載されたお話の中から、いくつか紹介します。(挿絵 勝亦洋子氏)



### くも 蜘蛛が淵

むかし、むかし、大徳院の坊さんが釣り竿をかつぎ、アシナカ草履を履いて、沢地川に釣りに来ました。

天気もよく、魚もたくさん釣れたので、ピクはたちまちいっぱいになりました。

ふと足下を見ると、大きな蜘蛛が、淵から坊さんの草履にせっせと糸を掛け始めていました。気にかけずにいると、どんどん掛けます。坊さんはなんだか気味が悪くなり、それをひょいとかたわらの檜の木に掛けたところ、間もなく雷のような大きな音と共に、木は淵の中に引き込まれてしまったそうです。

坊さんはびっくり迎天。あわてて逃げ帰り、途中でピクの中のをぞくと、釣れたはずの魚がみな笹の葉に変わっていたということです。

### 本陣の泥棒

ある日、番頭の手引きで本陣に泥棒が入りました。盗んだお金を腹掛けのどんぶりの中に入れて逃げました。本陣からの急報で役人がすぐあとを追いました。いま田町駅の西側にあるガードの南側の橋はそのころ幅のせまい木の橋でしたが、その橋の上で両方から役人に追い詰められ、にっちもさっちも行かなくなりました。

泥棒は、せっかく盗んだお金も使えずに捕まって首を切られるなんていまましいと思い、とっさに腹掛けをはずして盗んだお金を御殿川にばらまいてしまいました。お金はお金でもむかしは黄金の小判です。明治になってからも御殿川で、真偽のほどは分かりませんが、小判を三枚拾った人があったそうです。

それからは、この淵を、蜘蛛が淵というようになったそうです。

### 山中城の軍用金

天正18年(1590)豊臣秀吉軍により山中城は落城しました。

その折り、城に貯えられていた軍用金を豊臣方に奪われるのは残念至極であると、相談して地下に埋め、目印に黄色の花が咲くツツジを植えて置いたといひます。そして

「朝日かがやき 夕日照るところに  
黄金千倍 白金万倍」

という歌を残し伝えたということです。



## 頼朝の手洗い水

源頼朝が伊豆ひる韭山の蛭ヶ小島に流浪の頃、崇敬する三嶋大明神に源氏再興の大願をかけ百日参籠の途中たびたび右内神社（梅名）に立ち寄り参詣したといわれます。

あるとき、頼朝は社前に手洗い水が無いので不自由に思い、神前に折願の後、従臣のなぎなたを取り、参道の右傍の地面を2、3度突いたところ、不思議にもそこから水がわき出しました。さらに掘り起こすと、清水がこんこんと湧き、流れ出しました。頼朝は続いて左傍の地面も突いて、清水を湧き出させました。

村人はこの事を知り、神の靈験と頼朝の非凡さに驚き、以後、参道左右一對の「頼朝の手洗い水」を大切にしたということです。

## きつねとお婆さん

昔、なつめ棗木（夏梅木）に「イリヤ」と呼ばれる一軒のお百姓の家がありました。このお百姓の家は、村里より少し離れ、三方を山に囲まれた、外庭が広い日当たりのよい家でした。

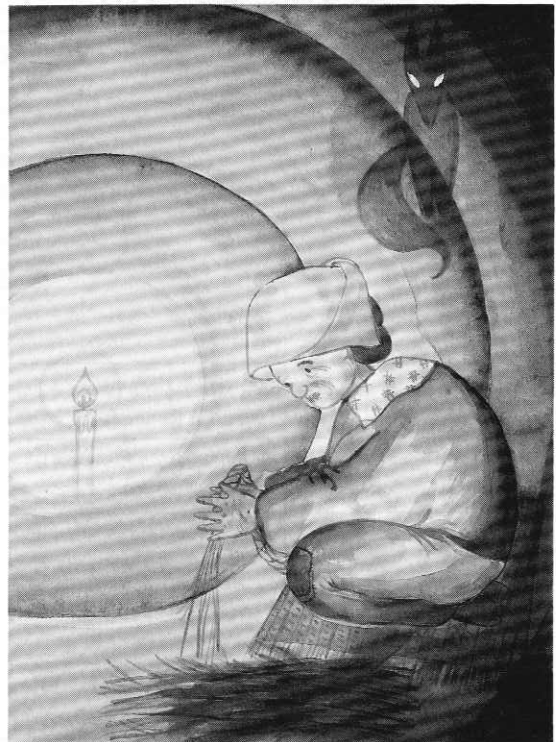
この家のお婆さんも毎晩夕飯を食べると家の中にある土間にムシロを敷いて縄をない夜なべをしていました。

ある日のこと、裏山へ行って仕事をしていると一匹の狐がくさむらの中にうずくまっているのを見つけました。お婆さんが近付いても逃げないので、そばに寄ってみると足に怪我をして倒れていたのです。お婆さんはかわいそうに思い、怪我をした傷をボロ布で巻いてやり、家にあった油揚げと水を傍らにおいて家に帰りました。それから何日か経ったある晩のことです。お婆さんは何時もと同じように今夜も縄ないの仕事をしていると、縁の下で、なった縄を引くものがあるので、驚いたお婆さんが灯で奥の方を確かめると、二つの輝く目玉が見えました。お婆さんは狐か狸かと思ってそのまま縄をなっていると、終わる頃になると又引っ張ります。お婆さんは大変助かり仕事もはかどったとのことでした。

ところが、あくる晩も、又次の晩もと、毎晩のように来て引っ張るので、お婆さんはある晩に縄をなっては、たぐる時に

「もういいよ」

と声をかけると狐は縄を引くようになり、その後はお婆さんの声がかかると引くことを覚えたといいます。そのおかげでこのお婆さんは大変に仕事がはかどり、楽ができたといわれています。



# 平成3年度 三島市郷土館 事業報告

郷土館開館20周年・三島市制施行50周年を記念して数々の事業を行いました。  
常設展示の充実を図り、企画展を開催、市民各層を対象とした講座を開設しました。  
主なものは次の通りです。

## ○開館20周年及び市制施行50周年記念事業

| 区分   | 事業名                              | 内容  | 実施日                | 入館者及び参加者        | 備考                                    |
|------|----------------------------------|---|--------------------|-----------------|---------------------------------------|
| 常設展示 | ビデオコーナー設置<br>(一階ロビー)             | 展示の案内、及び三島市の文化財、史蹟等の紹介  | 8月                 |                 |                                       |
|      | 「三島宿と街道交通」<br>コーナーの充実<br>(三階展示室) | 市指定文化財「三島宿風俗絵屏風」を原寸大に複製展示し、江戸時代の三島宿や街道風景、河川や湧水、農作業などを理解する一助とした。 | 11月                |                 | 所蔵者：三島信用金庫                            |
| 企画展示 | わが家の家宝展                          | 三島市内の各家庭で愛蔵・秘蔵している名品や思い出の品を提供してもらい、市民に公開し、文化財に対する認識を深めた。        | 10月20日<br>} 11月24日 | 14,870人         | 出品数 48件                               |
|      | 昭和史三島                            | 三島市制施行50周年に関連させ、激動の昭和64年間を、様々な地域資料で綴った。                         | 12月20日<br>} 2月11日  | 11,268人         | 館蔵資料                                  |
| 教育普及 | 歴史講座                             | 「江戸時代の伊豆・三島」をテーマに、三島及び伊豆地方の歴史・文化・地理・民俗の講座。                      | 11月～<br>連続4回       | 市民30人<br>歴代運営委員 | 講師：橋本 敬之氏<br>木村 博氏<br>榎 茂彦氏<br>瀬川裕市郎氏 |
| 出版活動 | 「20年のあゆみ」                        | 開館20周年の足跡をたどり、事業の概要を掲載、館運営を支えた多くの市民に感謝し今後の邁進の糧とする。              | 3月                 |                 | 無料 1,000部                             |
|      | 「続三島の昔話」                         | 「三島の昔話」に載らなかった新収集の昔話を多数掲載。                                      | 3月                 |                 | 有料<br>500円、1,000部                     |

## ○その他の事業

| 区分   | 事業名                                | 内容   | 実施日                            | 入館者及び参加者              | 備考                                    |
|------|------------------------------------|--|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------------|
| 常設展示 | 故郷の自然と民俗<br>(2階)<br>三島の歴史(3階)      | 三島暦・三四呂人形・農具・下駄作り道具、農家・商家の復元家屋など。<br>旧石器時代から江戸時代までの三島の歴史を展示。 |                                |                       | 2・3階は<br>常設展示場。<br>コーナーごとに展示          |
| 企画展示 | ふるさと的人物<br>コンデンスミルクの祖<br>花島兵右衛門    | 明治の教育や産業に偉大な足跡を残した花島兵右衛門の生涯を通して地域史を学んだ。                      | 3月24日<br>} 5月26日               | 22,336人               | 資料提供者<br>花島信之氏 他                      |
|      | 水と生活展                              | 「水の町」と称される三島の水と人々との関わりとさまざまな角度から取り上げた。                       | 7月28日<br>} 9月16日               | 12,080人               | 資料提供者<br>矢部健氏 他                       |
|      | 埋蔵文化財展<br>三島のあけぼのⅢ<br>三島の自然環境と古代遺跡 | 平成元年度以降に発掘調査された資料を展示し、郷土の歴史や文化財保護に対する理解を深めた。                 | 3月22日<br>} 5月31日               | 開催中                   | 資料提供者<br>市埋蔵文化財センター他                  |
| 教育普及 | 縄文土器作り教室                           | 土をねる、形を作る、焼成するという三段階の縄文土器作りを通して古代の生活に対する理解を深めた。              | 7月23、25日<br>} 8月23日            | 小学生<br>(4～6年)<br>30人  | 指導：郷土館学芸員                             |
|      | 夏休み郷土学習会<br>「三島の水めぐり」              | 三島の水路のなりたちを学習し、小浜池から温水池まで水路をたどり、人々が水をどのように利用したか理解した。         | 8月7日                           | 小学生(4～6年)<br>19人      | 講師：秋津巨氏                               |
|      | ふるさと講座                             | 三島の歴史・民俗・文学の講演と市内の水路めぐりを通じ、ふるさと三島に対する理解を深めた。                 | 10月～<br>連続4回                   | 市内の女性<br>30人          | 講師：長谷川福太郎氏<br>秋津 巨氏<br>伊達 圭氏<br>中尾 勇氏 |
|      | 初級・中級古文書講座<br>(自主グループ活動)           | 「岩瀬夜話」「駿河土産」の原文をテキストに、古文書の解読を学習                              | 毎月第3土曜<br>(中級)<br>第3日曜<br>(初級) | 会員数<br>初級26人<br>中級21人 | 講師：辻真澄氏                               |
|      | 古文書読習会<br>(自主グループ活動)               | 古文書の解読学習会、樋口本陣文書の解読に協力。                                      | 毎月第2、第4<br>土曜日<br>(年間23回)      | 会員数<br>19人            | 講師：長谷川福太郎氏                            |

| 区分          | 事業名                      | 内 容  | 実施日                    | 備 考  |
|-------------|--------------------------|--|------------------------|--|
| 収 集         | 郷土資料の収集                  | (1)市民からの連絡を受けて収集する日常活動における収集<br>(2)企画展などを機会に収集。                                    | 4月～3月                  | 民具、古文書、その他資料   |
|             | 収 蔵 品 の 整 理              | (1)収集資料の整理、台帳の作製<br>(2)録音資料、写真資料、文献資料の整理。  | 4月～3月                  | 古文書読習会々員協力など   |
|             | 収蔵庫のくん蒸                  | 2階 収蔵庫のくん蒸   | 7月3日～5日<br>(臨時休館)      | くん蒸専門業者委託  |
|             | 郷土館だよりの発行                | 年間3回発行<br>郷土館広報及び調査研究報告など。   | 年間3回発行                 | (8ページ)<br>無料 1,500部                                  |
|             | 絵葉書「浮世絵三島」<br>(シリーズ3)の作製 | 東海道五十三次の浮世絵の中から三島宿と<br>人物を描いたものを選んで作製(豊国、英泉)                                       | 12月                    | (4枚セット)<br>100円 2,000部                               |
|             | 企画展にともなう出版               | (1)「水と生活展」 図録<br>(2)「わが家の家宝展」パンフレット<br>(3)「昭和史三島展」図録<br>(4)「埋蔵文化財展—三島のあけぼのⅢ」パンフレット | 7月<br>10月<br>12月<br>3月 | 1,200円 500部<br>無 料 2,000部<br>500円 500部<br>無 料 2,000部 |
|             | 「三島宿本陣資料集(8)」<br>の発行     | 古文書読習会々員の解説協力により、樋口本陣文書を<br>解説して史料集として刊行   | 3月                     | 有 料<br>2,200円 300部                                   |
| 「広報<br>みしま」 | 郷土館シリーズ掲載                | 郷土の歴史や民俗について紹介   | 毎月1回紹介                 |  |

## ビデオコーナー 設置のご案内



このたび郷土館玄関ホールにビデオコーナーを設置しました。

29インチカラーテレビを玄関ホールに設置し、VHS式ビデオデッキを事務室において操作するようにしました。

主に企画展や三島の文化財等のビデオテープを放映して、来館者の皆様にご覧いただくようにしました。

ビデオテープの内容を紹介します。

- 「三島の文化財」(約25分)
- 「わが街三島」(約30分)
- 「故郷奏でて」(約30分)
- 「企画展梅御殿装飾絵画展」(約10分)
- 「企画展古地図展」(約10分)
- 「企画展昭和史三島展」(約5分)
- 「縄文土器作り教室」(約20分)
- 「三島の水めぐり」(約5分)等々です。

ご覧になりたい方は、郷土館ご来館の上、職員までお申し込み下さい。

# 旧東海道史跡巡り

～郷土館運営協議会委員の  
視察小旅行～

3月23日(月)、郷土館運営協議会では、委員の先生方による、県内中・西部地域の旧東海道史跡を巡る視察小旅行を行いました。



巡った史跡は、可睡齋（袋井市）、オランダ人使節の墓（掛川市）、小夜の中山の夜泣き石（菊川町・久延寺）、旧街道の石畳（金谷町）、大井川川会所・番小屋・建築中の島田市博物館（島田市）です。

いま、静岡県下では、県内の主要都市を縦貫している旧東海道を媒介として、それに係わる自治体がネットワーク化を図り、それぞれが所有する歴史的遺物を有効に生かした文化的な町造りを行う事業を推進しています。

こうした時、街道屈指の宿場町だった三島市も歴史的遺物の掘り起しと整備を進めることが急務となっています。また、郷土館としてもこの様な調査と研究にはおのずと関わらなくてはなりません。

今回の視察の目的は、こうした東海道に関する歴史遺物を、各自治体がどのように整備し、解説等を加えてその町の歴史的都市造りに生かしているかという現況を見ることになりました。

以下、視察した各遺跡を写真と解説でご報告いたします。

## 金谷坂石だたみ（金谷町） —写真上—

金谷坂石だたみは、旧東海道時代の石だたみ部分が残りに少なくなってしまったため、町と市民が協力し合って復元したものです。

丸い一個一個の自然石には、石を運んでくれた町の子供たちの名前が書いてありました。金谷坂の石だたみは「平成の道普請」と言われ、最近話題となった史跡復元のイベントです。

## 大井川川会所跡（島田市）

箱根人里と並び称された東海道の難所、大井川の渡しの場所には、川会所と人足たちのたまり場の番小屋が昔の姿そのままに残っています。

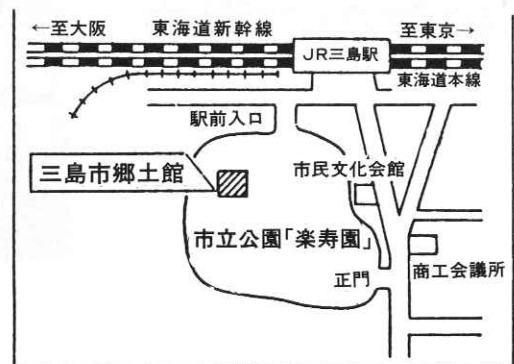
現在、この史跡横には、史跡の歴史的景観を生かして新築された市立博物館が建っています。

### 「利用案内」

休館日 毎月第2月曜・12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入場無料（但し、楽寿園入場の際、有料）



三島駅（南口）から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土館だより No.42

平成4年3月20日発行

（年3回発行）

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 編集 | 三島市郷土館                       |
| 住所 | 〒411<br>三島市一番町19-3 楽寿園内      |
| 発行 | TEL 0559-71-8228<br>三島市教育委員会 |